

図書館だより



2020(令和2)年3月18日発行

編集・発行 福島県立図書館

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地

Te1 024-535-3218

Fax 024-536-4787

<https://www.library.fks.ed.jp/>



新型コロナウイルス感染症への対応について

現在、新型コロナウイルスの感染が国内で拡大しています。万が一に備え、図書館を利用される皆様におかれましては、下記のことにつきまして、ご理解とご協力をお願いいたします。

1. 来館される皆様が快くご利用いただくため、咳エチケットや手洗いの励行にご協力ください。できるだけマスクの着用をお願いします。
2. 入館の際は、必ず手指消毒を行ってください。「アルコール消毒液」等を用意してありますので、ご利用ください。

設置場所


- ① 総合案内カウンター
- ② こどものへや 出入口
- ③ 2階西側 男子トイレ
- ④ 2階西側 女子トイレ



3. 風邪のような症状がみられる場合は、ご利用をご遠慮ください。
4. 館内での長時間の滞在はお控えください。
5. 当面(3月末まで)、入館せずに資料の返却ができるように、玄関脇の「返却ポスト」を24時間開放いたしますので、ご利用ください。

なお、県内図書館の対応状況については、当館ホームページのお知らせに掲載しております。

令和2年度福島県立図書館ボランティア募集

図書館活動を支えてくださるボランティアを募集しています。図書館活動に興味をお持ちの方のご参加をお待ちしております。詳しくは当館ホームページの募集要項をご覧ください。【募集期間】3/6(金)~3/31(火) 

当館のサービス紹介

①東日本大震災福島県復興ライブラリー出張展示

東日本大震災及び、東京電力福島第一原子力発電所事故とそれに伴う県内の被災・復興についての関連資料を、展示用セットとして貸出しています。5つのテーマから選ぶことができ、貸出期間は1~3カ月です。(※各図書館、図書室が対象のサービスです)

詳しくは、当館ホームページをご覧ください。

②朝河貫一資料展示セット貸出

当館では福島県の生んだ国際的歴史学者・朝河貫一(1873-1948)の書簡類を特殊文庫「朝河貫一資料」として保存しており、そのレプリカを展示セットとして貸出しています。50点の資料から選ぶことができ、貸出期間は1~3カ月です。(※図書館等借受施設が対象のサービスです) 詳しくは、当館ホームページをご覧ください。

Twitter アカウントを開設しています。



@fukushim_p_lib

イベント情報や、展示情報、図書館の日常などを発信しています。ぜひフォローしてください♪

新着案内

各分野の担当者が選んだ、お薦めの新着資料をご紹介します。

人文・自然・社会

『スロー・シンキング～「よくわかっていない私」からの出発』 森 真一／著 金子書房 2019.9 361/㊦ 199

現代社会は、どんどん変化していきます。複雑な物事を素早く理解するため、私たちはできるだけ単純化されたダイジェスト版に目を通して、次に進んでいることが多いのではないのでしょうか。

社会学者である著者は、「単純化は決めつけであったり思い込みであったりもし、そういう社会は息苦しい」と言います。本書の第Ⅱ部では実践編として、多様性を例に、さまざまな映画や時事問題を交えながら、スローシンキングの過程を体験することができます。ゆっくり考えることを見直したくなる1冊です。

『あて字の素姓 常用漢字表「付表」の辞典』 田島優／著 風媒社 2019.11 811.2/㊦ 19Y

知らないとなかなか読めない「あて字」。「なぜこのような表記や読み方をするのか？」と不思議に思う字も多いかもかもしれません。本書では、常用漢字表の「付表」で定められている「あて字」の一語一語の歴史を解説しています。例えば、「時計」も実は「付表」で認められている「あて字」ですが、もともとの表記は「土圭」（日時計を指す漢語）だったという解説がされています。他の語についても、過去の辞書でどのように掲載されていたのかを解説しています。

『カスハラ モンスター化する「お客様」たち』 NHK「クローズアップ現代+」取材班／編著 文藝春秋 2019.8 673.3/㊦ 198

サービス提供者に対し、客や利用者が度を越した対応を求めたり、執拗な攻撃を繰り返したりする、カスタマーハラスメント（カスハラ）が大きな問題となっています。本書はカスハラを受けた体験談、過去にクレマーだった人へのインタビュー、対策方法などで構成されており、そこから見える要因には、格差化、高齢化など、社会全体に関わる問題と、他者への不寛容、過剰な承認欲求が潜んでいました。この本を通じ、これは私たち自身に関わる問題だと認識され、解決の糸口となることを願います。

児童・児童図書研究

『おいしいおはなし 子どもの物語とレシピの本』 本とごちそう研究室／著 グラフィック社 2019.4 J596/㊦

物語の中に登場する食べ物ってどうしてとても美味しそうなのでしょう。登場人物たちが美味しそうに頬張っていた食べ物を、お家で料理してみませんか？ 子供向け文芸作品40冊のおはなしにまつわる40のレシピを掲載しています。ムーミンママのかぼちゃジャムにアリスを甘く誘うケーキ、ドリトル先生の自家製ソーセージなど、物語に登場する食べ物を詰め込んだ一冊です。

雑誌・新聞

東日本大震災から9年目を迎えました。復興が進んでいる一方で、5か月前の台風など新たな災害も起こっています。震災をはじめ、多くの災害が発生している今だからこそ読みたい雑誌をご紹介します。

『中央公論』 Z051 / C1
第134巻第3号, 1636号, 令和2年3月
「大災害時代」

『世界』 Z051 / S1
第930号, 2020年3月
「災害列島改造論」

『同朋』 Z188.7 / D1
第72巻第3号, 通巻827号, 2020.3
「3・11から9年 災害から教えられること」

『歴史地理教育』 Z375.3 / R2
通巻906号, 2020年3月号
「災害列島日本の現実に立ち向かう」

『原子力文化』 Z533.9 / G7
第51巻第3号, 通巻605号, 2020年3月号
「インタビュー 震災から九年。今、福島は
—未来の福島を支える人材育成を— 開沼博」

地域

『戯曲福島三部作』 谷 賢一／著 而立書房 2019.11 LS912.6/T6/1

第一部「1961年：夜に昇る太陽」、第二部「1986年：メビウスの輪」、第三部「2011年：語られたがる言葉たち」の三部から構成される戯曲集です。2019年に、いわき、東京、大阪で公演が行われました。原発の誘致から、2011年の原発事故後に至るまでの50年の歴史について、双葉町を故郷に持つ3人の兄弟とその家族を通して描かれています。震災から9年、様々な思いが渦巻いてきた福島のこれまでと、これからを考えさせられる1冊です。

『百年後を生きる子どもたちへ「帰れないふるさと」の記憶』 豊田 直巳／写真・文 農山漁村文化協会 2020.1 LS369.31/T33/1-4

昨年度「産経児童出版文化賞」大賞受賞作。著者は、フォトジャーナリストで国外の紛争地で取材を続け、東日本大震災後は福島を中心に活動しています。

本書は、小学生にもわかるように、浪江町津島地区の人々の困難に立ち向かう姿を写真と文章でつないでいきます。そして、集落の人々は、祖先がどことなくしをしていたかを残したいとの思いから「ふるさとの記録集『百年後の子孫たちへ』」をつくったと書き残しています。